

2006年3月27日



PushCorn2インストールマニュアル

RedHat Linux 版

Apache の最終設定から PushCorn のインストールまで

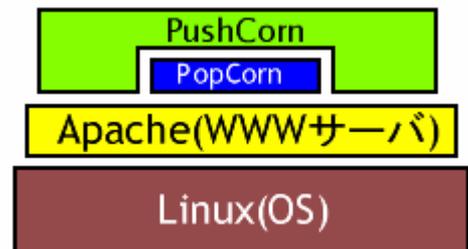
※文章中に表記されている英文字の、大文字・小文字は区別されます。従って、表記されているとおりに入力、操作してください。

1. PushCorn2・システムの概要

PushCorn2 サーバは、大きく分けて3階層になります。

(a)OS

PushCorn2 では OS に RedHat Linux を採用しています。また Mac OS X での動作を確認しています。これ以外の UNIX 系 OS で動作するものと思われませんが、まだ実施例がありません。Windows 系サーバでは動作しません。



(b)Apache(WWW サーバ)

インターネット経由で閲覧者の要求に応じてサーバ内のデータを閲覧者に送信し、あるいは閲覧者(PushCorn2 ユーザ)の要求に応じてファイルを受信するための機能を持ちます。PushCorn2 サーバでは、世界で広く用いられている Apache というソフトを用いています。

(c)PushCorn 2/ PopCorn2

従来の PopCorn2 を更に使いやすくするためのソフトです。ブラウザから最終的に PopCorn2(ファイル名: popcorn.pl) の処理を行うまでの手続きをガイドします。PopCorn2 は、PushCorn2 の核であり、PushCorn2 は PopCorn2 のシェル(殻)であると言えます。

2. ImageMagick・CGI.pm のインストール

(a)ImageMagick・CGI.pm ファイルを RedHat Linux の CD-ROM からサーバにコピー

ImageMagick とは、PushCorn2 が画像を変換(GIF 形式から JPEG 形式に変換したり、同じ JPEG 形式の画像でも、オリジナルのものとはサイズが異なる3種類の画像に変換)する際に使用するプログラムです。CGI.pm は、PushCorn2 が CGI で ImageMagick など呼び出す際に使用されます。

まず su コマンドを使用して、root ユーザになります。

```
su root
```

この後、root ユーザのパスワードが要求されます。

サーバが CD-ROM を読めるようにするマウントという作業を行います。

```
mount /dev/cdrom
```

これで CD-ROM ドライブの内容は、/mnt/cdrom ディレクトリの下から読めるようになりました。これとは逆に、マウントした CD-ROM をドライブから取り出すには、マウントとは逆のアンマウントを行う必要があります。

```
umount /mnt/cdrom
```

もしカレントディレクトリが CD-ROM 内にある場合は、cd コマンドで CD-ROM ドライブの外に出てからアンマウントを行ってください。

これからコピーするファイルは、複数の CD-ROM に分かれて収録されています。よって、CD-ROM をドライブに入れ替えるには、マウントして必要なファイルをコピー、終わったらアンマウントを繰り返します。

次に、`cd` コマンドで CD-ROM の一番上のディレクトリに移動します。

```
cd /mnt/cdrom/
```

ディレクトリ内のファイル一覧を表示させてみましょう。`ls` コマンドを使用します。

```
ls
```

`ls` コマンドに `a` オプションをつけると、ファイル名が「.(ドット)」で始まる、いわゆる隠しファイルも表示されます。`l` オプションは、ファイル一覧をタイムスタンプ付きの長い形式で表示します。したがって `a` オプションと `l` オプションをつけるには、`ls` コマンドを実行するときに、次のように入力します。

```
ls -al
```

また、`ls` コマンドにディレクトリ名をつけると、そのディレクトリの内容を表示します。そこで、ファイルをコピーするコピー先があるかどうか、確認してみましょう。

```
ls /usr/local/src
```

次のように表示されなければ、問題ありません。

```
ls: /usr/local/src: そのようなファイルやディレクトリはありません
```

次に、`cd` コマンドを使用して RedHat/RPMS ディレクトリに移動します。お使いの CD-ROM のセットによっては、CD-ROM 内のディレクトリが異なることがあります。

```
cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS
```

そして、`cp` コマンドを使用してファイルをコピーします。書式は次のとおりです。

```
cp コピー元 コピー先
```

したがって、実際には次のようになります。

```
cp ImageMagick-5.4.7-10.i386.rpm /usr/local/src
```

同様に `ImageMagick-perl-5.4.7-10.i386.rpm` ファイルと、`perl-CGI-2.81-88.i386.rpm` ファイルも `/usr/local/src` ディレクトリにコピーします。これらのファイルはそれぞれ別の CD-ROM に収録されているかもしれないので、マウント、コピー、アンマウントを実行してその都度 CD-ROM を入れ替えます。

```
cp ImageMagick-perl-5.4.7-10.i386.rpm /usr/local/src
```

```
cp perl-CGI-2.81-88.i386.rpm /usr/local/src
```

(b) インストール作業

`/usr/local/src` ディレクトリに移動します。

```
cd /usr/local/src
```

root ユーザのまま、`rpm` コマンドを使用して、今コピーした `rpm` ファイルをインストールします。

`rpm` コマンドに `i` オプションをつけるとインストール、`vh` オプションはインストールの進み具合を表示する際に使用します。先ほどコピーした 3 つのファイルを一度にインストールするには、3 つのファイルをスペースで区切って列挙します。

```
rpm -ivh ImageMagick-5.4.7-10.i386.rpm
```

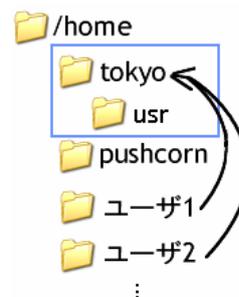
```
rpm -ivh ImageMagick-perl-5.4.7-10.i386.rpm
```

```
rpm -ivh perl-CGI-2.81-88.i386.rpm
```

1 分ほどでインストールは終了します。

3. ドキュメントルートの設定

WWW サーバ Apache が参照する、参照元を決定します。例えば、右図では、`/home/tokyo` (水色の箱の中) がドキュメントルートになっており、実体は `/home` 下にあるそれぞれのユーザのディレクトリがあります。`/home/tokyo` の「tokyo」はあくまで例として示したのであり、「pushcorn」以外の半角英数の名前であれば何でも構いません。`/home/tokyo` の下には、各ユーザディレクトリのリンクが張られています。ブラウザからアクセスした場合、`/home/tokyo` のリンクを元に、`/home` の下にあるユーザのページを間接的に参照する形になります。更に `/home/tokyo/usr` ディレクトリには、各ユーザが公開設定をしたサイトのリンクが配置されます。



ディレクトリの作成

ドキュメントルートのディレクトリを `mkdir` コマンドを使用して作成します。`/home/tokyo` の場合には、次のようにコマンドを入力します。

```
mkdir /home/tokyo
```

さらに、公開用ディレクトリ`/home/tokyo/usr`も作成します。

```
mkdir /home/tokyo/usr
```

4. Web サーバー(Apache2.0)のセットアップ

※おことわり:ここでは、RedHat Linux に標準で付属(インストール)される Apache を使用します。

設定情報が記されている `httpd.conf` ファイルを編集する前に準備を行います。

`conf` ディレクトリに移動します。

```
cd /etc/httpd/conf
```

オリジナルの `httpd.conf` ファイルを、`httpd.conf.org` というファイル名でバックアップをとります。

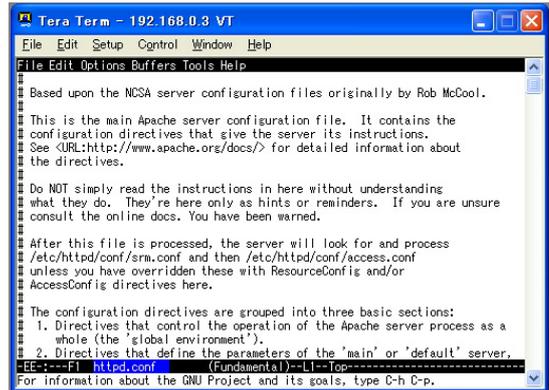
```
cp httpd.conf httpd.conf.org
```

`httpd.conf` ファイルを編集するために、Emacs エディタや `vi` エディタなどで開きます。

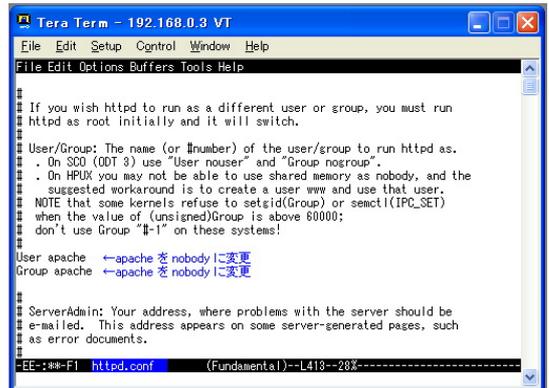
```
emacs httpd.conf
```

 (Emacs エディタで開く場合)

ファイルが開かれると、右図のような画面が現れます。



カーソルキー(「↓」)で画面をスクロールし、右の画像のように、`User`と`Group`を「`apache`」から「`nobody`」に変更します。



(a).サーバ管理者のメールアドレス

「`ServerAdmin`」に続くメールアドレスを、実際の管理者のメールアドレスに変更してください。

(旧) `ServerAdmin root@localhost`

(新) `ServerAdmin endoh@aabb.ne.jp`

(b)サーバ名

「`ServerName`」の行も、ネットワーク上のサーバ名を変更します。ネットワークの管理者によってサーバ名が決められている場合もありますが、決められていない場合には、サーバの IP アドレスを記述してください。

(旧) `#Servername localhost` (←先頭に「#」をつけてコメントアウト)

(新) `Servername 192.168.0.3`

(c)ドキュメントルート

前のページの 4 で設定したドキュメントルートを記述します。

(旧) `DocumentRoot "/var/www/html"`

(新) `DocumentRoot "/home/tokyo"`

(d)ディレクトリの設定

(c)と同様に変更します。

(旧) `<Directory "/var/www/html">`

(新) <Directory "/home/tokyo">

右図のように、Options～に続く行に、下記の記述を追加します。

+ExecCGI

「AllowOverride」の設定も変更します。これは、ユーザが自身のアカウントを使用する際のパスワード認証を有効にするためです。

(旧) AllowOverride None

(新) AllowOverride All

(e) CGI の起動

PushCorn が正しく起動するために必要です。

(旧) #AddHandler cgi-script .cgi
(先頭に「#」をつけてコメントアウト)

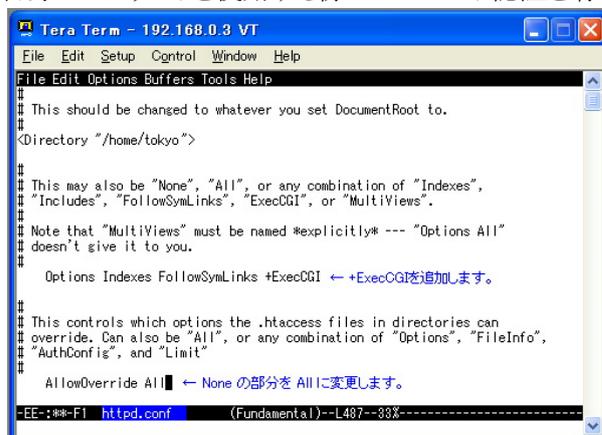
(新) AddHandler cgi-script .cgi

(f) デフォルト文字コードの設定

既定の文字コードを Shift JIS に設定します。

#AddDefaultCharset ISO-8859-1 (←先頭に「#」をつけてコメントアウト)

AddDefaultCharset shift_jis (←追加)



(g) 編集の終了

Emacs エディタを使用している場合、[Ctrl]+x を押し、[Ctrl]+c を押します。何かメッセージが出た場合には、y、または yes と入力してください。

Apache を再起動します。restart により、Linux システムは Apache を一度停止し、更新された httpd.conf ファイルを読み込んで Apache を起動します。

```
/etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

5. PushCorn 最新版ファイルのアップロード・解凍

あらかじめ、PushCorn.tar 最新版ファイルをダウンロードしておきます。このファイルには、popcorn.pl が含まれます。

まず、/home に pushcorn ディレクトリを作成します。

```
mkdir /home/pushcorn
```

解凍方法: ダウンロードしたファイルを、適当な場所 (例えば、/usr/local/src のような作業用ディレクトリ) に保存し次のコマンドを実行します。

```
cd /usr/local/src
tar xvf pushcorn.tar
```

2 つのディレクトリ pushcorn, ini は、/home/pushcorn/src/下へ移動してください。

/home/pushcorn ディレクトリ内にあるファイルのオーナー、グループをそれぞれ chown, chgrp コマンドで nobody にします。R オプションでディレクトリを指定すれば、そのディレクトリとその中のファイルすべてのオーナー (所有者) またはグループ (オーナーの所属する組) を、(下の場合は nobody に) 変換できます。

```
chown -R nobody /home/pushcorn
chgrp -R nobody /home/pushcorn
```

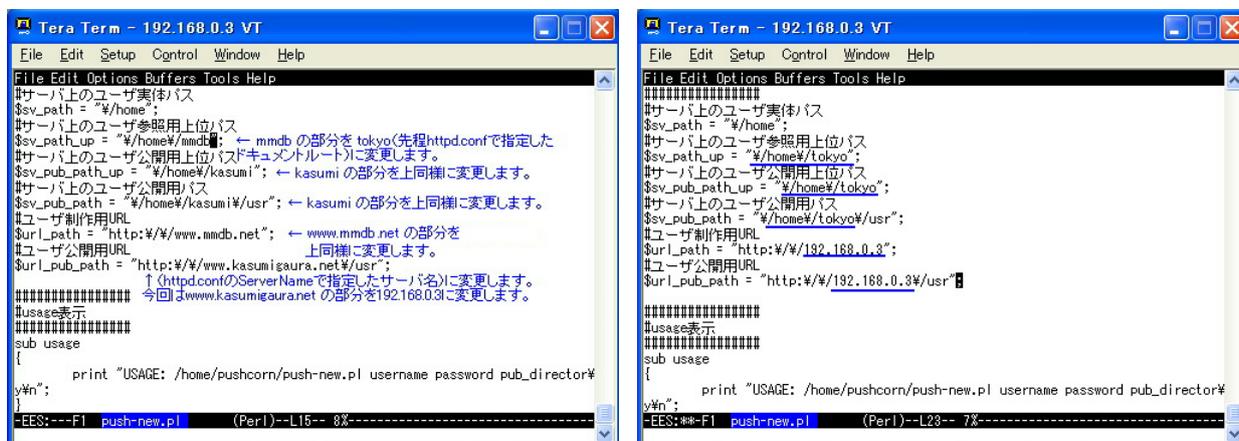
(次ページへ続く)

6. push-new.pl の編集

PushCorn2 新規アカウント発行スクリプト「push-new.pl」を Emacs エディタなどで開いて編集します。このファイルは下記のディレクトリに保存されています。

/home/pushcorn/

次ページの左が変更前および変更すべきポイントを示した画面、右が変更後の画面です。



次に管理者用 ID とパスワードを設定します。下から 2 行上に次のような記述がありますので、変更します。

「XXXXX」が管理者用 ID, 「YYYYY」が管理者用パスワードになる箇所です。

```
(旧) system "htpasswd -bd $sv_path/$user/.htpasswd XXXXX YYYYY";
```

```
(新) system "htpasswd -bd $sv_path/$user/.htpasswd kanrisha bjvcfea";
```

これで、PushCorn の新規アカウント発行が可能になりました。「push-new.pl」を起動するには、root ユーザになって下記のように入力します。

```
/home/pushcorn/push-new.pl 新規ユーザ名 新規ユーザのパスワード
```

```
(例) /home/pushcorn/push-new.pl ueno mamas
```

7. 新規アカウントの発行

root ユーザになり、次のスクリプトを実行します。

```
/home/pushcorn/push-new.pl 新規ユーザ名 新規ユーザのパスワード
```

8. 作業の終了